

同窓会報

No. 18

▼建設中の総合研究実験棟



豊橋技術科学大学



2001

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 後藤圭司

平成12年4月から全国立大学は教育・研究・運営等について外部評価を受けることを義務づけられました。これに伴って「大学評価・学位授与機構」が発足しました。工学系大学の本年度の評価課題は「教育サービス面における社会貢献」と「教養および基礎教育」について、全学テーマ別評価を受けることになっています。このためには、まず評価資料を整え、外部評価を受け、これらの資料を「大学評価・学位授与機構」へ報告することになります。

6月には大学審議会から「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」審議の概要が報告されました。そこでは、国際的な通用性・共通性の向上と、国際競争力の強化を図るための5つの視点と改革方策が挙げられています。すなわち、1) 教育の質の向上：技術者倫理やコミュニケーション能力の重視、2) 教育研究の多様化：国際化、産学連携、生涯学習への対応、3) 情報通信技術の活用：インターネットの活用、グローバル化への対応、4) 人的流動性の向上：国内外について、5) 組織運営体制の改善と財政基盤の確保、などです。

また、工学教育の分野では、技術者の資格化や教育プログラムの認定が行われようとしています。前者は本年4月に改正された技術士法であり、学部卒業時を対象とする「技術士補」の個人資格であり、後者は「日本技術者教育認定機構」による学科等の機関認定です。いずれも工学系の学部教

育の今後を左右するとともに、義務化された外部評価とも関係しており、その動向が注目されます。

国立大学の独立行政法人化については、現在、文部省で調査検討会議が進行中であり、来年度中にはその具体像が明らかにされようとしています。これに先駆けて大学間の統合や連携等に関する話題の記事が報道されているのはご承知のとおりです。

このような状況の下で学内では、改革の流れに遅れをとることのないよう、特別会議を設けて検討中です。また本年度から予算検討会議を設置するとともに、教育研究活性化経費を新たに設けて競争的予算配分を実施した所です。さらに大学院博士課程は年3回の入学方式になりました。12月から、修士課程に英語のみによる特別コースが設置され、国際化が一段と進展します。現在、キャンパスでは総合研究実験棟*を建設中です。9階建てで延べ面積4353平方メートルで、かなり大きなビルになります。これが本年中に完成すると、博士課程の4専攻と未来技術流動研究センター等が入る予定になっています。この工事が終わると、教育研究面で本学が直接必要とする建物は一応揃うことになります。

平成8年に開学20周年を祝った本学は青年期から既に壮年期に移っており、今後は教育研究内容の一層の充実を図る必要がある時期に至っていると考えます。本学のさらなる発展のために同窓生の皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

*編集者注「表紙写真」

学内近況報告

機械システム工学系

埜 克己

卒業生、修了生の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。系長の三田地紘史先生を中心に、教職員一同元気で、教育・研究の充実に励んでおります。

教職員の異動につきましては、熱工学講座の中西康彦先生が、3月末に群馬大学工学部機械システム工学科に転出されました。4月には熱工学講座の鈴木孝司先生が助教授に、またトライボロジ研究室の李長生先生が助手に昇任されました。技官の森川正治氏は未来技術流動研究センターへ移られ、系の事務でお世話になった加藤悟司氏に代わって小野田貴幸氏が担当されています。燃焼工学講座の山本和弘先生には、昨年8月より文部省在外研究員として、アメリカ(ロスアラモス研究所)・イギリス(ロンドン大学)に滞在されていましたが、8月末に本系に戻って来られました。今年度の陣容を別表に示します。

来春に卒業・修了する予定者の就職状況につきましては、最近自由応募を指定する企業が増えておりますが、求人数はほぼ昨年度と同様で、大部分の学生が夏休み前に内定いたしました。これもひとえに皆様のご活躍の賜物と感謝いたしております。

12月からは修士課程英語特別コースの留学生を対象とした英語による授業が始まります。スタッフ一同、本系の教育・研究をより一層充実させるよう努力してゆきますので、就職や実務訓練など皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

依然として厳しい社会情勢の中、ご健康には十分に留意されて、益々ご活躍されることを願っております。

【第1講座(熱・流体工学講座)】

教授：三田地紘史(系長)、日比 昭
助教授：中川勝文、北村健三、柳田秀記、鈴木孝司

【第2講座(エネルギー変換工学講座)】

教授：小沼義昭、蒔田秀治、高木章二
助教授：野田 進、鈴木新一
助手：山本和弘、関下信正、内山直樹

【第3講座(機器設計学講座)】

教授：竹園茂男、本間寛臣、上村正雄
助教授：埜 克己、畔上秀幸、関東泰祐
助手：感本広文、竹市嘉紀(技術開発センター)、
李 長生

教務職員：Gunawan Fergyanto Efendy

[技官] 徳増 学、神谷昌宏

[系事務] 小野田貴幸、野亦真理子

生産システム工学系

土 谷 浩 一

生産システム工学系卒業生・修了生の皆様、如何お過ごしでしょうか?当系は小林系長以下教職員一同、教育・研究に精力的に活動しております。本年度は系紹介の和文・英文パンフレットを刷新し、学生勧誘などの広報活動に役立てております。また月に1回程度“PSEサロン”を開き、外部講演者を招いたり系の諸問題について意見を交換するなどの新しい試みを始めました。

国際交流も盛んで現在、中国・韓国・ルーマニア・メキシコ・マレーシア・インドネシア等、世界各国20人程度の留学生が当系で勉学に励んでいます。なお、材料工学講座医療福祉工学研究室(新家光雄教授)は生産システム工学系共通研究室となりました。生産計画学講座旧システム解析研究室は名称を変え“システム創製研究室”(清水良明教授)となりました。

教職員の移動について簡単にご報告いたします。加工工学講座では精密加工工学研究室に防衛大学から鈴木浩文助教授が赴任されました。また、同研究室には助手として工作センターから渋谷秀雄先生が転任されました。渋谷先生は現在米国ノースカロライナ大学精密加工センターに留学中です。材料工学講座では同講座で3月に博士号を取得した劉志光先生、赤堀俊和先生がそれぞれ材料機能制御研究室、工作センターに助手として着任されました。白井宏始技官は入学主幹入試係へ転任となりました。これまで氏のSEMの腕前に助けられた学生・教官は数多いと思われませんが、作業服を白いワイシャツとネクタイに着替えて新しい職場で奮闘しておられます。生産計画学講座ではシステム創製研究室の崔文田講師が中国西安交通大学経営学部へ転任されました。同研究室には理化学研究所から同研究室に柳在圭助手が赴任され2系猛虎

会の強力な新メンバーとしても活躍しています。計測システム研究室の北川孟教授は平成13年3月で定年を迎えられます。その他当系の近況についてはホームページ(<http://plast.tutpse.tut.ac.jp/pse/>)でも随時報告しておりますのでどうぞご覧下さい。

国立大学独立行政法人化がいよいよ目前にせまり、本学に於いても均等配分校費が従来の7割に削減されるなど、目に見える形での変化が起こっています。卒業生の皆様ともより一層交流・連携を深めて、この大きな波を乗り越えたく思いますので、御指導・御鞭撻の程宜しくお願いいたします。

末筆となりましたが、皆様の御健康と益々の御発展を御祈りいたします。

【加工学講座】

教授：星鐵太郎(工作センター長)、堀内 宰、
森謙一郎

助教授・講師：牧清二郎、福本昌宏、鈴木浩文
助手・技官：原田泰典、渋谷秀雄、小楠和彦

【材料工学講座】

教授：小林俊郎(系長)、川上正博、梅本 実
助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、横山誠二
助手・技官：劉 志光
教務職員：森田繁樹

【生産計画学講座】

教授：北川 孟、清水良明(系長補佐)、寺嶋一彦
助教授・講師：三宅哲夫、北川秀夫、堀嶋 聡(工作センター)
助手・技官：矢野賢一、北島禎二、柳 在圭、樫 正己

【系共通研究室】

教授：新家光雄
助手：福永啓一、赤堀俊和(工作センター)

[事務官] 永井 静

電気・電子工学系

穂積直裕

修了生、卒業生のみなさん、各職場でますますご活躍のことと思います。世間の風は決して甘くはありませんが、なれるに従っていたる処に楽しみがあることがわかってくると思います。人の役に立つ喜びを味わうとともに、自己実現の場としての職場で大いに才能を発揮されることを期待いたします。

さて、電気・電子工学系では平成12年3月に次の3名の方々が技科大を去られました。基礎電気電子大講座教授であった藤井壽崇先生は定年退官され、愛知工科大学教授として、同大講座教授であった小川陸郎先生は函館工業高等専門学校教授として、同大講座助手をされていた大越昌幸先生は防衛大学校助手として、それぞれご活躍になっておられます。

新しくお迎えした先生方としては、4月に京都大学博士課程から古川雄三先生が、7月には日本学術振興会特別研究員（北海道大学）の岡田浩先生が、それぞれ電子デバイス大講座助手としてお見えになっておられます。また、澤田和明先生は電子デバイス大講座講師から同大講座助教授に昇任されました。事務室では4月に事務官の原宏充さんが退職され、学務課から大宮明代事務官が見えておられます。

[電気・電子基礎大講座]

教授：英 貢、太田昭男
助教授：服部和雄、井上光輝、張 平祥
講師：内田裕久

[電気システム大講座]

教授：恩田和夫、榊原建樹、長尾雅行
助教授：穂積直裕、乾 義尚、滝川浩史
助手：伊藤衡平、村本裕二、見目喜重、宮野竜一
(技術開発センター)

技 官：日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授：吉田 明、米津宏雄、石田 誠
助教授：朴 康司、今枝健一、若原昭浩（技術開発センター）、澤田和明
助手：岡田 浩、高尾英邦、古川雄三
技 官：足木光昭
秘 書：白井浩子

[事務室] 大宮明代、深井悦子、村田裕美

皆さん、母校へどどん顔を出して下さい。やり遂げた仕事の自慢話、職場の裏話、よき伴侶の話、産学協同のちょっといい話など、聞かせていただくのを楽しみにしております。

情報工学系

伊藤大雄

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。長引く不況もやっと回復のきざしが現れてきた様です。困難を切り抜けた暁には我々はますます強靱な力を得ているに違いありません。大学はこれから激動の時代を迎えて教官一人一人が頑張らないといけないと心を引き締めております。

この1年（1999年10月1日～2000年9月30日）の間に情報工学系では、4人の新任の先生をお迎えする一方、5名の先生が転出されました。2000年4月1日に、京都大学より永持仁教授および石井利昌助手、奈良先端科学技術大学院大学より宇津呂武仁講師、慶応義塾大学より青木公也助手をお迎えしました。新任の先生方はいずれも非常に優秀な人材で、心強い限りです。また、1999年10月1日に川人祥二助教授が静岡大学に教授として、2000年1月1日に廣田光一助手が東京大学に助教授として、2000年4月1日に、奥山徹講師が朝日大学に助教授として、峯松信明助手が東京大学に助教授として、合志和洋助手が熊本電波高専に助手として赴任されました。転出された先生方は各地で活躍され、本学の名をますます広めてくれることと思います。

[計算機大講座]

教授：中川聖一、中島 浩、永持 仁
助教授：梅村恭司
講師：高田広章、宇津呂武仁
助手：大野和彦、石井利昌
技 官：片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授：臼井支朗、金子豊久、宇野洋二
助教授：栗山 繁
講師：片山正純、中内茂樹
助手：福村直博、早坂太一、青木公也

[情報システム大講座]

教授：宮崎保光、田所嘉昭、横山光雄
助教授：後藤信男
講師：伊藤大雄
助手：上原秀幸、Rakkappan Balasubramanian
技 官：宮脇治雄

教職員一同、当学及び世界の科学の発展の為に、これからさらに力を注いでいく所存ですので、御指導御鞭撻のほどお願い申し上げます。

物質工学系

岩佐 精二

卒業生、修了生のみなさん、如何お過ごしでしょうか。時代の激しい流れの中で果敢に自己実現を実践されていることと思います。

さて、本系の近況をお知らせします。本年度から神野清勝教授が系長を、西山久雄教授が系長補佐を務めています。転出は川口正剛先生が山形大学に助教授として転任され、新たに曹継壮教務職員が有機材料研究室に着任しました。なお齊戸美弘先生は助手に昇進しました。服部敏明助手は博士研究員として渡米中です。また、中村健太郎事務官が転出し、鈴木いずみ事務官を迎えて系事務を切り盛りしております。

大学では独立法人化への決定的な移行を控え、組織改革や研究費の競争的獲得化、さらには研究テーマも厳しくその直接的意義を問われるような状況が現実のものとなりつつあります。好奇心が科学の推進力であった時代の終焉が確実に到来している感があります。しかし本系スタッフは物質工学が科学の基盤を支え続けるということへの確固たる自負をもって教育と研究に丸となって頑張っておりますので卒業生、修了生の皆様におかれましては時々、母校豊橋技術科学大学に立ち寄り元気な様子を見せて下さるようお願いいたします。また同時に近況をご報告下さいますようお願い申し上げます。

建設工学系

本間 宏

卒業、修了生の皆さん、それぞれの状況の中で自分たちの存在の場を確保し、活躍されていることと思います。

また1年が経ち、同窓会報の季節になりました。この1年間の系内は比較的平穏でした。ただ1件の人事は8月末で計画大講座の野澤隆秀君(11期)が退職し、建築設計に集中しているそうです。このあとは伊藤建築設計事務所からきた細田智久君(18期)が埋めています。

この大学の初期に学生だった諸君は驚くことと思いますが、わが系の7, 8階がこの大学の最上階だったものが、学科増設により、新たに建った建物は9階建てです。D棟の西側はループ道路まで建物が続いてしまいました。ループ道路の北側にも大きな実験棟が並んでいます。

昨年から1年次学力試験による入学は課程を決めず一括してとり、1学期の終了後、進路を選択する方式になりました。この選択が円滑に行くかどうか心配がありました。今年で2回を経験し、順調に進んでいます。我が建設系には元気で成績の良い連中が昨年は6人、今年は10人入ってきて、楽しげにかつ熱心に学生生活を送っています。

[工業無機化学大講座]

応用物理化学研究室 : 亀頭直樹 教授
大串達夫 助教授, 佐藤裕久 助手
無機材料工学研究室 : 逆井基次 教授, 前田康久 講師,
武藤浩行 助手
無機物性工学研究室 : 角田範義 助教授, 水嶋生智 講師,
大北博宣 教務職員

[工業分析化学大講座]

分離定量分析化学研究室 : 神野清勝 教授(系長),
平田幸夫 助教授, 齊戸美弘 助手
生化学研究室 : 青木克之 教授, 吉田祥子 講師,
似内 靖 助手

[工業有機化学大講座]

有機材料工学研究室 : 伊藤浩一 教授, 伊津野真一 助教授,
曹 継壮 教務職員
応用有機化学研究室 : 西山久雄 教授(系長補佐),
岩佐精二 助教授, 本山幸弘 助手
複合材料工学研究室 : 竹市 力 助教授, 西宮伸幸 助教授,
松本明彦 助手

[分析計測センター]

状態分析化学研究室 : 加藤正直 助教授, 服部敏明 助手

[技 官] 太田初一, 齊藤年秀

[事務官] 鈴木いずみ

最後に、教職員一同、皆様のより一層のご発展とご健康を祈念いたします。

今年の就職のお世話は角先生の担当です。最近の卒業、修了生諸君の進路は建設業にとらわれず、多様化しています。これには建設業の被っている厳しい波も影響していると思いますが、求職する学生諸君の考え方や、求職にインターネットを使うなどの手法の変化も影響していると思います。

お元気で!

[構造大講座]

教 授 : 加藤史郎, 角 徹三, 河邑 眞
助 授 授 : 山田聖志, 田中仁史
助 手 : 中澤祥二, 中治弘行, 蔭 健群
技 官 : 金田隆文

[環境大講座]

教 授 : 本間 宏, 中村俊六, 北尾高嶺
助 授 授 : 松本 博, 青木伸一, 西村和之
助 手 : 小出水規行
教務職員 : 山本一伸
技 官 : 片岡三枝子

[計画大講座]

教 授 : 三宅 醇, 渡邊昭彦, 廣島康裕
助 授 授 : 大貝 彰, 加藤彰一, 泉田英雄
助 手 : 谷 武, 細田智久
教務職員 : 山中正樹

[事 務] 小柳津武

知識情報工学系

後藤 仁志

先日、私の部屋のエアコンのスイッチを切り替えてみたところ温風が吹き出してきました。「もうそんな季節なんだなあ」と思いながらブラインドを上げてみると、キャンパスの緑が色づき始めていることに気づきました。卒業生、修了生の皆さん、お元気ですか？季節は変わってもIT関連を除けば景気は相変わらず低調なまま。でも、ITに強い(はず?)知識情報工学系出身者はこれを好機に換えて益々の御活躍のことと思います。

さて、知識情報工学系の近況をご紹介します。まず、情報科学大講座では赤松隆助教授と吉田敦助手が転出され、西尾孝治助手が着任されました。機能情報工学大講座には新たに北崎充晃講師と桂田浩一助手が着任され、昨年より続いた機能情報の大改革は完了したようです。なお、小林聡助手が転出されました。一方、分子情報工学大講座では小澤理樹助手が転出され、関野秀男博士が12月より教授として着任することになっております。それから、とても残念なことで、大澤映二教授が来年3月で定年退官されます。

就職関係についてはIT関連企業の多くが好調であることも手伝って、一部の例外を除けば、比較的早い段階で全員が就職先を決めることができました。もちろんこれも卒業生、修了生の皆さんの日頃のご活躍があってこそと感謝致しております。

ところで、既にご存知のこととは思いますが、知識情報工学系の初代系長であります佐々木慎一前学長が昨年12月15日お亡くなりになりました。本系の設立に努力され、その発展に寄与されてこられましたこと

[情報科学大講座]

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
 助 教授：河合和久
 講 師：市川周一
 助 手：渡邊裕司、西尾孝治

[分子情報工学大講座]

教授：大澤映二、阿部英次、関野秀男
 助 教授：高橋由雅、船津公人、後藤仁志
 助 手：栗田典之、加藤博明

[機能情報工学大講座]

教授：山本真司、新田恒雄、堀川順生
 助 教授：杉浦彰彦
 講 師：金澤 靖、北崎育晃
 助 手：滝沢穂高、桂田浩一

[事務室]

教 務 係(技官)：小西和孝
 学 系 係 係 係：丸木仁史

[学生現員] (平成12年4月1日現在)

学 部：1年次15名、2年次15名
 3年次69名、4年次56名
 修 士：1年次48名、2年次49名

はご承知のとおりですが、ここであらためて生前のご厚誼に深謝し、ご冥福をお祈りいたします。

教官室の窓からは大きな空と豊橋の豊かな畑地が一望できることにご存知のとおりです。特別美しい風景とは思いませんが、それでも最近ではビニルハウスと新築の住宅が目につくようになり、なんとなく残念な気分になるのは、ここに通う者にとって癒しの風景だからなのでしょう。この同窓会誌を読まれたことを機会に、それぞれの私風景を眺めに母校まで足を伸ばしてください。教職員一同、心より歓迎いたします。

エコロジー工学系

野田 玲治

寒冷の候、エコロジー工学系の卒業生、修了生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。さて、当系の近況についてお知らせいたします。

まず、平成12年4月1日付けで生態環境工学講座に小口達夫先生(東京大学大学院博士課程修了)が助手として着任されています。同じく4月1日付けで田中照通先生が、助手から助教授に昇格されました。事務の森田晃央さんは用度第2係へ移動され、代わって原田則子さんが新しく仲間入りされています。同じく事務の市橋(旧姓上村)洋子さんが平成12年10月に結婚されました。事務の仕事は結婚後も引き続き引き受けていただいています。平成12年10月現在での本系教職員および学生現員は別表の通りです。系長は昨年より引き続き笠倉忠夫先生が、系長補佐は松為宏幸先生が務めておられます。

平成12年1月にはG棟の北側に大学院棟(G1棟)も完成し、研究室、実験室も充実したものとなりました。エコロジー工学系設立当時をご存じの卒業生、修了生の皆さんは、その充実ぶりに驚かれるかもしれません。機会がありましたら、是非一度お立ち寄り下さい。

本系の最新情報は下記URLからアクセスできます。是非ご覧下さい。

<http://www.eco.tut.ac.jp>

[生態基礎工学大講座]

教授：鈴木慈郎、平石 明、菊池 洋
 助 教授：S. S. Siddiqui、桂 進司、田中照通
 助 手：松澤有希子、安田八郎

[生物応用工学大講座]

教授：水野 彰、藤江幸一、笠倉忠夫
 助 教授：辻 秀人、胡 洪堂、田中三郎
 助 手：高島和則、後藤尚弘、野田玲治

[生態環境工学大講座]

教授：松為宏幸、北田敏廣
 助 教授：成瀬一郎、木曾祥秋、金 照濬
 助 手：小口達夫、倉田学児

教務職員：岡村 聖

[技 官]

坂井悦子

[事 務]

原田則子、市橋(旧姓上村)洋子

[学生現員]

学 部：1年次14名、2年次12名、
 3年次54名、4年次56名
 修 士：1年次46名、2年次56名

最後に、同窓生の皆様のご健康とご発展をお祈りいたします。

人文・社会工学系

相 京 邦 宏

人文・社会工学系，語学センター，体育・保健センター及び未来技術流動研究センターの平成12年度のスタッフは以下の通りです。

人文・社会学講座日本語・日本文学担当の山内先生がこの3月に愛知淑徳大学に転出されました。山内先生の後任には中森康之先生（専門は江戸俳諧，近世文学）が8月1日付けで着任されました。又未来技術流動研究センターの助手として白川正知先生（専門は光通信，光エレクトロニクス，信号処理）が新たに着任され，系のメンバーに加わっております。尚，愛知淑徳大学に転出された山内先生は，現在，非常勤講師という形で本学に出講されております。又，昨年退官された野村武先生は，現在，第6工学系主催のアフター6スライド上映会の講師として時々本学に来られております。

近年，不透明な政治・経済状況が続いておりますが，皆さんの一層の奮闘・御活躍を期待しております。

[社会工学系]

教 授： 浜島昭二(系長)，藤原孝男，宮田 謙，
山口 誠

助 教 授： 相京邦宏，尾碓一志，河合弓子，中森康之，
西村政人，平松登志樹

助 手： 渋澤博幸

外国人教師： マーシャル リチャード ジョゼフ

[語学センター]

教 授： 伊藤光彦，小杉隆芳，山本 淳(センター長)

助 教 授： 加藤三保子

講 師： 村松由起子，結城正美

教務職員： 鈴木聖子

[体育・保健センター]

教 授： 安田好文(センター長)

助 教 授： 柳原 大

[未来技術流動研究センター]

教 授： 古川泰男

助 手： 白川正知

豊橋技術科学大学同窓会のホームページ開設についてのお知らせ

本学同窓会ではこのたびホームページの開設をいたしました。現時点では試験公開中ですが、今後同窓会報の公開等を含めた同窓会会員の皆様への情報提供を更に充実させていただきます。ホームページには役員メールアドレスも掲載しておりますので、住所変更等の際の会員の皆様と役員との連絡手段としても大いに御活用下さい。

アドレスは

<http://www.cilab.tutkie.tut.ac.jp/tut-ob/> です。

また、上記同窓会ホームページに関する御意見、御感想は下記の電子メールアドレスまでお寄せ下さい。なお、ご連絡の際は、卒業・修了年度、課程・専攻を御書き添え下さいます様、よろしく申し上げます。

tut-ob@cilab.tutkie.tut.ac.jp

平成11年度

退官教官より



副学長（総務・学生担当）

穴山 武

『退官に当たって』

「光陰矢の如し」という言葉があるように、月日の経つのは本当に早いものである。八戸高専の校長を退き、仙台でのんびり老後を過ごそうと思っていた私が、後藤先生のお誘いを受けて豊橋に赴任してから、あっという間に4年の歳月が流れ、この三月末で退官の日を迎えることになった。4年の歳月は、私の50年近い大学での生活の中では決して長いとは言えないが、この4年間における社会的情勢の変化、特に大学教育をめぐる様々の問題は嘗って経験したことのない複雑で大きな変革を必要とするもので、質的には大変密度の高い4年であったと言える。

豊橋技術科学大学で過ごした4年の年月の中で、私の心に強く焼き付けられ、私なりに考え続けて来たことはいろいろあるが、その中の一つ、二つを退官の思い出として述べ、本学で学びやがて社会に巣立って行く学生諸君へのお別れの言葉としたい。

今年は20世紀最後の年であり、また、2000年という新しいミレニアムのはじまる年でもある。次に来る21世紀は、文明の大転換期と言われ、科学技術の進歩を背景に社会のあらゆる面に変革が進み、パラダイムの大転換が進む時代となる。利便性・経済性を追求し大量生産・大量消費の時代を築いた20世紀の科学技術のパラダイムは大きく崩れ、地球環境問題を解決し豊かで潤いのある社会を創造するために、安全性・環境性・快適性等を重視する新しいパラダイムが追求され、科学技術の内容そのものも、「ものを生産する」20世紀型から、「文化を創造する」21世紀型の科学技術へと質的転換を迫られる時代へと移って行くことになる。

このような情勢を背景に、平成7年末に科学技術基本法が制定され、これを受けて平成8年7月に科学技術基本計画が閣議決定され、21世紀における我が国の科学技術の進むべき方向が明確に打ち出された。これらによれば、我が国は「科学技術創造立国」を目指すことを国の大目標として掲げ、地球温暖化など地球規模の諸問題の解決を図りつつ、新産業の創出や高度情報通信社会形成の基盤となる新しい科学技術の創出に努めることを国の基本政策としている。

この「科学技術創造立国」と言う国の目標が、21世紀の教育研究を考える場合の原点となると私は考えている。

教育の立場で言えば、科学技術創造立国を目指して新産業と新技术を創出するためには、自らの力で知の世界を切り拓くことの出来る実践力と創造力に溢れた人材が求められ、如何にして創造的人材を育成するかが21世紀の教育、特に技術教育に課せられた最大の課題となっている。

創造力と実践力に富む人材育成については様々な視点が議論されているが、その中で、高専や技科大の教育の特色を評価する意見が随所に見られる。例えば、経団連報告「創造的な人材の育成へ向けて」(平成8年3月)では、「複線型で複眼的な教育システム」の必要性を指摘し、また文部省のまとめた「創造的人材育成のために」(平成8年3月)では、実験・実習を重視した実践的教育を高く評価し、更に、平成9年の文部省の教育改革プログラム及び通産省の「経済構造の変革と創造のための行動計画」では、インターンシップ(教育の一環として行われる学生の企業研修)の重要性を強く指摘し、本学の特色である実務訓練制度の意義が国の政策としても認められたことになった。

このように見ると、複線型教育機関としての本学の特色と、実践的教育を重視する教育理念は、21世紀の人材養成を使命とする大学のあり方として評価されていると考えて良いであろう。しかし、この評価は、あくまで、大学としての特色と理念についてであって、本当の社会的評価は本学を巣立って行く卒業生が現実の社会で力量を発揮してはじめて得られるものである。私は、本学で学び世に出て行く卒業生が、このことを心に刻み、「科学技術創造立国」を支える創造的・実践的技術者として大きく生長して行くことを心から願い、また期待している。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第66号(平成12年3月22日発行)に掲載されたものを、ご本人および学生課の了承を得て転載したものである。



電気・電子工学系 教授

藤井 壽 崇

『思・い・出・す・が・ま・ま・に』

私はこの3月末で22年間お世話になった技科大を定年で去ることになりました。昭和53年に技科大が設立されると同時に名古屋から豊橋に移ってきました。在職の間本当に充実した楽しい年月を過ごすことができ、これは大学の教官、事務官のスタッフと学生のお陰と感謝しています。邯鄲（かんたん）の夢のように過ぎ去った22年でしたが、何時の間にか大学で一番の古株の一人になってしまい、改めて年月の経つ速さを感じています。

現在ではキャンパスも整備され、教育・研究環境も整ってきています。しかし設立当初の状況を知る人も少なくなったと思われるので、当時を思い出すがままに記すのも無意味でなかろうと思って雑文をしたための次第です。豊橋にご厄介になる一番のきっかけは、初代学長榎 米一郎先生は私の名古屋時代の恩師であり、先生から「新構想の大学の建設に手を貸してくれないか。無地のキャンパスを与えるから思う存分自分なりの絵を描くよう努力してくれないか」といわれたことに始まります。赴任した時キャンパスは建設の最中、完成していた建物はA棟、B棟、厚生施設と学生寮だけでした。中央ゾー

ンは未舗装、特に寮からの道は雨が降るとひどくぬかるみ、寮生は大学に来るのにゴム長靴をはかないと泥まみれになる有様でした。翌年になると3年編入学生は4年生になり、特別実験（いわゆる卒業研究）のため私の下にも数名の学生が配分されました。ないないづくしの状態からのスタートでしたので、先ず絵の具と筆がなければキャンパスに絵が描けないと、彼らと相談してドライバやペンチなど工具やハンダ鋸を買ったことを昨日のように鮮明に覚えています。当時唯一の実験道具といえば学生実験用のミニコンで、これを用いて計算したり、実験装置を自作したりして少しずつ研究を立ち上げてゆきました。彼らと毎日夜遅くまで一緒に実験して大いに楽しみました。その時の学生についての印象は、少々産（うぶ）だが真面目で素直、そしてよく手が動く鍛え甲斐のある学生だなと実感しました。研究テーマを学生に説明した時、世の中で行われている類似の研究を後追いしても到底太刀打ちできないし意味がない、ものはなくても創意工夫次第で独自の研究ができると学生に言い聞かせたものです。学生には悪戦苦闘を強いたのですが辛抱強い努力の甲斐が報われて、それらの夢が少しずつでも現実のものにすることができました。今年で19期大学院修了生を世に送り出すこととなります。私の研究室からも既に80余名の学生が巣立ってゆきました。それぞれの分野の最前線で活躍している頼もしい卒業生も現れ、折に触れて訪ねてくれるのは教師冥利につきると幸せを味わっています。彼らは豊橋の地を第二の故郷だといい、技科大の静かな環境で勉学できたのはよかったといってくれるのは本当に嬉しいことです。

国立大学も独立行政法人化の方向で動いており、大学を囲む環境も厳しくなります。そのため、サバイバルをかけて努力する必要があります。技科大は小規模な大学ですが、イナーシャが小さく変革に即応性がある特長を生かして、独自の魅力をもった大学にますます発展することを願って止みません。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第66号(平成12年3月22日発行)に掲載されたものを、ご本人(現愛知工科大学・電子情報工学科教授)および学生課の了承を得て転載したものである。

研究室だより

医療福祉工学研究室の近況

生産システム工学専攻2年

葎谷 慎也



卒業生および修了生の皆様、いかがお過ごしですか？職場で大にご活躍のことと思います。

現在、我が研究室は、教官3名（新家光雄教授、福永啓一助手、赤堀俊和助手）、1名の非常勤研究員（Dr. Yulin Hao）および18名（博士課程学生2名、修士課程学生11名および学部学生5名）の学生からなっています。

我が研究室では、生体用チタン合金を中心とした種々の生体用材料について研究を行っていますが、主に我々の研究室で開発した新しい生体用 β 型チタン合金であるTi-29Nb-13Ta-4.6Zrの力学的特性および生体親和性の評価に力を入れています。今年度は、研究室に新しい実験機器が多く入ってきました。擬似生体内環境での通常疲労試験、フレット疲労試験および磨耗試験の可能な多目的型疲労試験機

（MTS社製）をはじめ、摩擦面あるいは破面の形状を測定する原子間力顕微鏡、極微小領域の硬度測定機および歯科精密铸造装置など、今まで他機関に委託していた実験も研究室内で行うことが出来るようになりました。平成7年の研究室創立当時と比べ、研究設備はかなり充実し、実験が行いやすい環境になったとつくづく実感します。これらの実験器具が“宝の持ち腐れ”にならないよう、学生たちは日々研究に励んでおります。

毎年夏恒例になっている2系研究室対抗早朝スポーツ大会では、サッカーが優勝、野球も準優勝と例年ながらすばらしい成績を残しました。研究室旅行は、御前崎岬へ出掛け、釣り、サーフィンあるいは昼寝とそれぞれ好きなことを好きなだけ楽しみ、夜は夜で恒例の大宴会と大いに盛り上がり良い休息が取れたと思います。その結果?! 各自の研究も順調に進んでいるみたいです。個人差はあるみたいですけど…。

現在、学部4年および修士2年は、追い込み実験および論文作成と、研究室内はたいへんあわただしい雰囲気です。また来年度、私を含め3人の学生が博士後期課程に進学することになりました。先輩方も豊橋へお寄りの際は、ぜひ研究室に立ち寄り、助言など頂けたらうれしく思います。研究室一同心よりお待ちしております。

生体・神経情報工学研究室の近況

情報工学専攻修士1年

新妻 隆行



卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍しておられることと存じます。

現在の生体・神経情報工学研究室は、白井支朗教授、中内茂樹講師、早坂太一助手、非常勤研究員の石原彰人さんの4名のスタッフと、博士5名、修士2年4名、修士1年5人、学部8人、そしてこの9月にフィリピンからの研究生Paulitoさんを加えた総勢27名で構成されています。

さて、研究室の近況を御報告致します。昨年度、白井教授を研究統括責任者として科学技術庁のNRV (Neuroinformatics Research in Vision) プロジェクトが

発足しました。NRVプロジェクトは、簡単に言えば神経科学と情報工学の研究者が共に手を携え、脳や神経系の解明を目指してそのIT基盤を確立しようというものです。そのため、21世紀を目前に控えた今年も、白井教授は世界中を飛び回っています。

研究室では、「網膜」「眼球システム」「色彩科学」「理論」「視覚情報表現」の5つの研究グループがそれぞれに活気ある研究を日夜行っています。毎週土曜日に開かれるミーティングでは、研究の状況報告や発表練習などを行っており、研究室一丸で各研究テーマを支えています。また、不夜城と呼ばれた生活環境ははまだ健在で、今年も夜遅くまで研究室の明りが消えることなく、研究に熱意を燃やす学生の姿を見ることができます。

今年の研究室行事では、春に新入生歓迎会としてソフトボール大会を開き、夏には恒例の研究室旅行で長野県菅平を訪れてきました。また、今年度から始まった情報処理大講座内でのソフトボール大会でも、優勝カップを勝ち取りました。

詳しい研究室の近況は、HPにて公開しておりますので、お時間があればぜひ一度御覧下さい。また、豊橋方面へ来られたときには、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。研究室一同、心から歓迎させていただきます。

<http://www.bpel.ics.tut.ac.jp>

大貝研究室の近況

研究室代表

桶野 俊介



花見にて

卒業生・修了生の皆様、お元気でしょうか。皆様はそれぞれの職場でおおいにご活躍なさっていることと存じます。

現在の大貝研究室は学生17名で構成されており、来年度の研究室配属で新たに5人が加わる予定です。先生は「研究室で野球チームが2つ作れる」と言われておりますが、ゼミの時間を考えると素直に笑えないのが現状です。

さて、現在の研究室における研究テーマを大別して紹介しますと、

- (1) GIS(地理情報システム)研究グループ

この研究グループでは現在、地理情報システム(GIS)を用いた都市計画支援システムの開発や、都市成長を予測するモデルの開発を行っています

(2) 地方都市の都市計画研究グループ

この研究グループでは現在、地方都市の中心市街地活性化方策、駅空間の変遷、都市マスタープラン策定における住民参加の仕組みと手法に関する研究を行っています

(3) 都市景観研究グループ

この研究グループでは、遺伝的アルゴリズム(GA)を用いた都市景観構造を評価するシミュレーションシステムについて研究しています

上記のほかにも、卒業設計、あるいは研究室でのコンペ参加などを研究室の明かりが消えることが無いというほどに精力的に行っています。

今年の活動では研究室参加の「Singapore Management University」の国際コンペに参加したこと、豊橋

市二川の住民参加によるまちづくりへの提携、学会コンペで支部入選したこと等が挙げられます。

研究室での各種行事も盛んに行っており、四季折々・節目節目に行われる宴会はもちろんのこと、ボーリング大会やビリヤード大会を開催しております。また、例年通り行っている6月の研究室登山旅行では、多数のOBの方にも参加していただいて、楽しく過ごすことができました。

大貝研究室ではOB参加の登山旅行(ほぼ御嶽山か乗鞍)のほかにも、OB会を毎年12月に行っています。連絡先の不明な方もいらっしゃるの、研究室まで住所やメールアドレスをご一報いただけたらと思います。なお、現在の研究室の研究内容や様子はURLにおいてもご覧になれます。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なる躍進・ご発展をお祈りしております。

URL(<http://urban.tutrp.tut.ac.jp>)

生物機能小講座の近況

エコロジー工学系助手

松 澤 有希子



卒業生、修了生の皆様。その後、如何お過ごしでしょうか?お変わりなくお元気で御活躍されていることと存じます。

さて、生物機能講座は、鈴木慈郎教授グループ、平石明教授グループのもとでの研究活動を行っています。

現在の構成員は鈴木研究室は、助手1名、博士課程1名、修士課程4名、4年生4名です。平石研究室は博士課程1名、修士課程6名、4年生2名となっています。平石研究室へ他大学から修士課程より入学希望をする人が多く、来年も2名新たに加わります。

研究テーマは(鈴木研) 1)細胞質内酵素におけるシステイン残基の役割、2)酵素とくに加水分解酵素の

合成反応への応用、3)高分子凝縮剤、油ゲル化剤の精製:(平石研) 1)新規微生物の探索と特性評価、2)廃水処理系の微生物群集解析、3)生分解性プラスチックを利用した高度廃水処理技術の開発、4)生ゴミ処理の微生物生態学とリサイクル、5)ダイオキシンおよびその他の人為創成化学物質の微生物分解 です。徐々にですが、前進しています。詳細はwwwホームページ(<http://www.eco.tut.ac.jp/~bac/homepage.html>)を開設しておりますので御覧いただければ幸いです。

研究室には、朝は7時前から夜は深夜まで学生さんたちが出入りしています。特に今の時期(ただ今11月下旬)は、4年生は卒業研究に向けて、修士2年生は予備審査に向けて毎日頑張っています。研究(遊びのほうもきっと)に全力投球?といったところでしょうか。研究室行事の多くは追いコン以外、今でも合同で行っています。先日も鈴木先生の65才の誕生祝いを行いました。ケーキを食べる前に平石先生のキーボード演奏に合わせてみんなで歌を歌いましたが、なかなかの感動ものでした(と思っています)。

最後になりましたが、鈴木先生はあと残りわずかで本大学を退官されます。この3月で鈴木研究室はなくなりますが、近いうちに卒業された皆様にお会いできるものと楽しみにしております。

平成11年度 卒業・修了者就職先一覧

平成12年5月1日現在

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
一般企業					
1	アース環境(株)	1	0	0	1
2	アイコクアルファ(株)	0	1	0	1
3	アイシン・エイ・ダブリュ精密(株)	0	2	0	2
4	アイシン精機(株)	0	1	0	1
5	アイシン高丘(株)	0	1	0	1
6	(有)赤澤鋼業	0	1	0	1
7	アクシスソフトウェア(株)	0	1	0	1
8	(株)アクティス	1	0	0	1
9	旭硝子(株)	0	1	0	1
10	旭テック(株)	0	1	0	1
11	朝日電装(株)	1	0	0	1
12	アスモ(株)	1	0	0	1
13	(株)アドバンテスト	0	1	0	1
14	アムズ(株)	0	1	0	1
15	アラコ(株)	0	2	0	2
16	アルス・コンサルタンツ(株)	0	1	0	1
17	(株)アルタ	0	1	0	1
18	(株)アルトナー	0	1	0	1
19	アルパイン(株)	0	2	0	2
20	(株)アルファシステムズ	1	1	0	2
21	(株)アルファ情報システムズ	1	0	0	1
22	(株)アルプス技研	0	1	0	1
23	Andaras Univ.	0	0	1	1
24	アンリツ(株)	0	1	0	1
25	イー・アンド・エム(株)	0	1	0	1
26	石川島播磨重工業(株)	0	1	0	1
27	石塚硝子(株)	0	1	0	1
28	(株)泉創建エンジニアリング	0	1	0	1
29	(株)イズミテック	1	0	0	1
30	(株)出雲村田製作所	0	1	0	1
31	(株)一条工務店	0	1	0	1
32	(株)イツツ	1	0	0	1
33	伊藤忠テクノサイエンス(株)	1	3	0	4
34	(株)イノアックコーポレーション	0	2	0	2
35	茨城工業高等専門学校	0	1	0	1
36	(株)インタープロジェクト	0	1	0	1
37	内田油圧機器工業(株)	0	1	0	1
38	(株)H. I. C	0	1	0	1
39	(株)イーアイネット・テクノロジー	0	1	0	1
40	(株)ASK PLANNING CENTER	0	1	0	1
41	(株)エステム	1	0	0	1
42	エヌエスケー・ワナー(株)	0	1	0	1
43	N T N (株)	0	1	0	1
44	N T T 移動通信網(株)	0	1	0	1
45	NTT関西移動通信網(株)	0	1	0	1
46	NTT東海移動通信網(株)	0	1	0	1
47	N T T ドコモ	0	1	0	1
48	荏原実業(株)	0	1	0	1
49	(財)オイスカ四国研修センター	0	1	0	1
50	応用地質(株)	0	1	0	1
51	(株)オーアンドケー	0	1	0	1
52	(株)O M ソーラー協会	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
53	株式会社オービックシステムエンジニアリング	0	1	0	1
54	岡本(株)	0	1	0	1
55	小野産業(株)	0	1	0	1
56	小原建設(株)	0	1	0	1
57	オムロン(株)	0	1	0	1
58	オムロン飯田(株)	1	0	0	1
59	オムロン一宮(株)	0	1	0	1
60	オリエンタル建設(株)	0	1	0	1
61	核燃料サイクル開発機構	0	1	0	1
62	鹿児島県	0	1	0	1
63	(株)河合実建築設計事務所	0	1	0	1
64	川崎重工業(株)	0	1	0	1
65	関西電力(株)	0	1	0	1
66	関西ペイント(株)	0	1	0	1
67	木更津高等専門学校	0	0	1	1
68	(株)北電子	1	0	0	1
69	(株)キットコーポレーション	0	1	0	1
70	キュービー(株)	0	1	0	1
71	京セラ(株)	0	1	0	1
72	(株)京都第一科学	0	1	0	1
73	京楽産業(株)	1	0	0	1
74	協和ファインテック(株)	1	0	0	1
75	極東開発工業(株)	0	1	0	1
76	(株)国盛化学	0	1	0	1
77	クラリオン(株)	0	1	0	1
78	(株)グローバル	1	0	0	1
79	(株)桑本賢一設計事務所	1	0	0	1
80	KMTセミコンダクター(株)	0	1	0	1
81	小糸工業(株)	0	1	0	1
82	(株)構造計画研究所	0	1	0	1
83	(株)神戸製作所	0	1	0	1
84	光洋精工(株)	0	1	0	1
85	興和(株)	0	1	0	1
86	小松フォークリフト(株)	0	1	0	1
87	五洋建設(株)	0	1	0	1
88	(株)近藤製作所	0	2	0	2
89	佐賀大学	0	0	1	1
90	(株)サムソン	0	1	0	1
91	サラダコスモ(株)	1	0	0	1
92	三協(株)	0	1	0	1
93	三協建設(株)	0	1	0	1
94	サンクス(株)	0	1	0	1
95	サンケン電気(株)	1	0	0	1
96	サントリー(株)	0	1	0	1
97	(有)三宝新電	0	1	0	1
98	(株)CSK	0	2	0	2
99	(株)シーチューブソフト	1	0	0	1
100	ジーマ(株)	0	1	0	1
101	自衛隊	1	0	0	1
102	滋賀県	0	1	0	1
103	シグマ光機(株)	0	1	0	1
104	芝浦電産(株)	0	2	0	2
105	(株)島津製作所	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
106	清水建設(株)	0	1	0	1
107	シャープ(株)	0	2	0	2
108	シャクアラ大学	0	1	0	1
109	(株)ジャパンアウトソーシング	0	1	0	1
110	ジャパン・イー・エム(株)	0	1	0	1
111	(株)シヨーワ	0	1	0	1
112	昭和コンクリート工業(株)	0	1	0	1
113	シロキ工業(株)	0	1	0	1
114	神鋼電機(株)	0	2	0	2
115	信州大学	0	0	1	1
116	スズキ(株)	0	3	0	3
117	スター精密(株)	0	1	0	1
118	スタジオオ青(株)	0	1	0	1
119	住友大阪セメント(株)	0	1	0	1
120	住友化学工業(株)	0	1	0	1
121	住友重機械工業(株)	0	1	0	1
122	住友電気工業(株)	0	2	0	2
123	セイコーエプソン(株)	0	2	0	2
124	セイコープレジジョン(株)	0	1	0	1
125	(株)セーコー	0	1	0	1
126	積水ハウス(株)	0	1	0	1
127	積和建設豊橋(株)	1	0	0	1
128	仙台電波工業高等専門学校	0	0	1	1
129	セントラルエンジニアリング(株)	1	0	0	1
130	総合研究大学院大学	0	0	1	1
131	ソニー(株)	0	4	0	4
132	ソニー幸田(株)	0	1	0	1
133	ソニーブロードキャストプロダクツ(株)	0	1	0	1
134	大栄産業(株)	0	0	1	1
135	(株)ダイコク電機	0	1	0	1
136	大信精機(株)	1	0	0	1
137	(株)ダイテック	0	1	0	1
138	大同特殊鋼(株)	0	1	0	1
139	大同メタル工業(株)	0	2	0	2
140	大日コンサルタント(株)	0	1	0	1
141	ダイハツ(株)	0	1	0	1
142	(株)竹中工務店	0	1	0	1
143	(株)ダッド	0	1	0	1
144	(有)谷口建設	0	1	0	1
145	(株)谷山建築設計事務所	0	1	0	1
146	(株)田村設計事務所	1	0	0	1
147	Chukha Hydro Power CO.	0	1	0	1
148	中電コンピュータサービス(株)	0	1	0	1
149	中部積和不動産	0	1	0	1
150	中部電力(株)	0	1	0	1
151	(株)中部プラントサービス	1	0	0	1
152	通商産業省工業技術院電子技術総合研究所	1	0	0	1
153	(株)鶴弥	0	1	0	1
154	T H K (株)	0	1	0	1
155	(株)デイスコ	0	1	0	1
156	(株)T Y K	0	1	0	1
157	(株)テクトロン	0	1	0	1
158	(有)デザインブレイン	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
159	(財)鉄道総合技術研究所	0	0	1	1
160	(株) テンイチ	0	1	0	1
161	電気技術開発(株)	0	1	0	1
162	電子科学(株)	0	1	0	1
163	(株)デンソークリエイト	0	1	0	1
164	デンソーテクノ(株)	1	0	0	1
165	(株)土井組	0	1	0	1
166	(株)東海テクノ	1	0	0	1
167	東海日日新聞社	1	0	0	1
168	東京エレクトロン山梨(株)	0	2	0	2
169	東京電力(株)	0	1	0	1
170	東研サーモテック(株)	1	0	0	1
171	(株)東芝	0	3	0	3
172	東芝LSIシステムサポート(株)	0	1	0	1
173	東芝情報制御システム(株)	0	1	0	1
174	東芝テック(株)	0	2	0	2
175	(株)東新住建	1	0	0	1
176	東電ソフトウエア(株)	1	0	0	1
177	東陶機器(株)	0	1	0	1
178	東北エプソン(株)	1	0	0	1
179	東北電力(株)	1	1	0	2
180	東北リコー(株)	1	0	0	1
181	東友機械工業(株)	1	0	0	1
182	東洋化工機(株)	1	0	0	1
183	東洋ビジネスエンジニアリング(株)	1	0	0	1
184	東レ(株)	0	1	0	1
185	(株)トエネック	0	1	0	1
186	(株)TOKAI	0	1	0	1
187	(株)トケミ	0	1	0	1
188	トフレ(株)	0	1	0	1
189	(株)都市基盤コンサルタンツ	1	0	0	1
190	鳥取三洋電機(株)	0	2	0	2
191	(株)トピア	0	1	0	1
192	トビー工業(株)	0	1	0	1
193	富山小林製薬(株)	0	1	0	1
194	(株)トヨタケーラム	0	1	0	1
195	(株)トヨタシステムリサーチ	1	1	0	2
196	トヨタ自動車(株)	0	2	0	2
197	(株)豊田自動織機製作所	0	2	0	2
198	豊橋技術科学大学	0	0	2	2
199	豊橋市役所	0	2	0	2
200	トレックスデバイス(株)	0	1	0	1
201	内外エンジニアリング(株)	0	1	0	1
202	(株)ナカシャクリエイティブ	0	1	0	1
203	(株)中筋組	0	1	0	1
204	中日本建設コンサルタンツ(株)	0	1	0	1
205	中日本電子(株)	1	0	0	1
206	西ウオータル大学	0	0	1	1
207	西日本電信電話(株)	0	1	0	1
208	ニチコン(株)	1	0	0	1
209	(株)日研工作所	0	1	0	1
210	日鋳金属(株)	0	1	0	1
211	日精工業(株)	0	1	0	1
212	日通工(株)	1	0	0	1
213	日東電工(株)	0	3	0	3
214	(株)ニデック	0	3	0	3
215	日本エリクソン(株)	1	0	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
216	日本原子力研究所	0	0	1	1
217	日本酸素(株)	0	1	0	1
218	日本システムウエア(株)	0	1	0	1
219	日本電気(株)	0	2	0	2
220	日本電気移動通信(株)	0	1	0	1
221	日本電信電話(株)	0	0	1	1
222	日本特殊陶業(株)	0	1	0	1
223	日本発条(株)	0	1	0	1
224	日本ユニシス(株)	0	1	0	1
225	(株)ニューメディア総研	0	1	0	1
226	(株)ネットビジョン	1	0	0	1
227	ネポン(株)	0	1	0	1
228	ハッポー化学工業(株)	0	1	0	1
229	バブコック日立(株)	0	1	0	1
230	(株)パロマ	0	1	0	1
231	(株)パンテクノ	1	0	0	1
232	(株)美建	0	0	1	1
233	Hitachi Consumer Products	1	0	0	1
234	日立金属(株)	0	0	1	1
235	(株)日立空調システム	0	1	0	1
236	日立システムエンジニアリング(株)	1	0	0	1
237	(株)日立製作所	0	6	0	6
238	日立西部ソフトウエア(株)	1	0	0	1
239	日立ソフトウエアエンジニアリング(株)	0	1	0	1
240	日立中部ソフトウエア(株)	0	1	0	1
241	日立電気(株)	0	1	0	1
242	日立電線エンジニアリング(株)	1	0	0	1
243	(株)日立マイクロソフトウエアシステムズ	0	2	0	2
244	(株)日比谷花壇	1	0	0	1
245	病態解析研究所	1	0	0	1
246	ファイザー製薬(株)	0	1	0	1
247	(株)フェニックスシステム研究所	0	1	0	1
248	(株)フォトン	0	1	0	1
249	ブカレスト工科大学	0	0	1	1
250	(株)福井村田製作所	0	1	0	1
251	富士機械製造(株)	0	2	0	2
252	藤城運輸(株)	0	1	0	1
253	富士精工(株)	0	1	0	1
254	富士ソフトABC(株)	0	2	0	2
255	富士通(株)	0	1	0	1
256	(株)富士通愛知エンジニアリング	0	2	0	2
257	(株)富士通香川システムエンジニアリング	0	1	0	1
258	(株)富士通コンピュータテクノロジー	1	0	0	1
259	(株)富士通ゼネラル	0	1	0	1
260	(株)富士通ディフェンスシステムエンジニアリング	0	1	0	1
261	富士通VLSI(株)	0	1	0	1
262	富士電機(株)	0	1	0	1
263	富士電気化学(株)	0	2	0	2
264	富士電線電器(株)	0	1	0	1
265	(株)フジミンコーポテッド	0	1	0	1
266	富士薬品工業(株)	1	0	0	1
267	(株)フジユニバンス	0	1	0	1
268	扶桑建設工業(株)	1	0	0	1
269	フタバ産業(株)	0	1	0	1
270	ブラザー工業(株)	0	2	0	2
271	古河電気工業(株)	0	1	0	1
272	(株)フルキャストウィズ	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
273	(株)ベンチャーセーフネット	0	2	0	2
274	ホシザキ電機(株)	0	2	0	2
275	北海道開発局	1	0	0	1
276	北海道立工業技術センター	0	0	1	1
277	H O Y A (株)	1	0	0	1
278	ポラスグループ(株)	0	1	0	1
279	本田技研工業(株)	1	1	0	2
280	本多電子(株)	0	1	0	1
281	(株)牧野フライス製作所	0	1	0	1
282	松定プレシジョン(株)	0	1	0	1
283	松下システムテクノ(株)	1	1	0	2
284	松下精工(株)	0	2	0	2
285	松下通信工業(株)	0	1	0	1
286	松下電器産業(株)	0	5	0	5
287	(株)松下電器情報システム名古屋研究所	0	1	0	1
288	松下電工(株)	0	1	0	1
289	松浪建設(株)	1	0	0	1
290	(株)MARUWA	0	2	0	2
291	三井化学(株)	0	1	0	1
292	三井造船(株)	0	1	0	1
293	三菱重工業(株)	0	3	0	3
294	三菱電機ビルテクノサービス(株)	1	0	0	1
295	三菱レイヨン(株)	0	1	0	1
296	ミネベア(株)	0	1	0	1
297	ミノルタ(株)	0	1	0	1
298	武蔵精密工業(株)	0	1	0	1
299	ムツミ工業(株)	0	1	0	1
300	村田機械(株)	0	1	0	1
301	(株)名鉄コンピュータサービス	0	1	0	1
302	Medan Area Univ.	0	1	0	1
303	森山工業(株)	0	2	0	2
304	八木アンテナ(株)	0	1	0	1
305	矢崎総業(株)	0	2	0	2
306	(株)安川電機	0	1	0	1
307	(株)ヤスナ設計工房	0	1	0	1
308	(株)山武	0	1	0	1
309	(株)ユアサコーポレーション	0	1	0	1
310	ユーアイ電子(株)	0	1	0	1
311	輸送機工業(株)	1	0	0	1
312	ユニデン(株)	0	1	0	1
313	横河電機(株)	0	1	0	1
314	吉富ファインケミカル(株)	0	1	0	1
315	(株)リオスコアコーポレーション	0	1	0	1
316	(株)柳伸建築設計事務所	0	1	0	1
317	(株)リンセイシステム	1	0	0	1
318	ローム(株)	0	1	0	1
319	ローランド(株)	0	2	0	2
320	ローランドディー・ジー(株)	0	1	0	1
321	和歌山県	0	1	0	1
322	和歌山県立医科大学	0	0	1	1
計		63	304	18	385

(注) 就職先一覧には、社会人卒業・修了者は含めない。

計	男子学生	345
	女子学生	40
	社会人卒業・修了者	8
	合計	393

クラブ活動への援助報告

同窓会では、クラブ活動の活性化に貢献することを目的とし、以下の2種類の資金援助を行なっております。

- (1) 対外的に最も良い成績を取めたクラブに贈られる「クラブ奨励金」
- (2) 活発な活動を行なっており、最も資金援助が必要なクラブに贈られる「クラブ援助金」

平成12年度は、ロボコン同好会にクラブ奨励金(5万円)が、硬式庭球部にクラブ援助金(5万円)が、それぞれ贈られることになりました。

ロボコン同好会

代表 滝 康 嘉

この度は我々の活動の成果がこのような形で認められ、うれしく思っております。ありがとうございます。

現在ロボコン同好会は学部生23名、院生8名の、約30名のクラブです。昔は1・2系の学生が多かったようですが、今では1～8系の全ての学生が在籍しています。現在の活動場所は講義棟(A棟)の2階の仮倉庫を間借りしています。また、実験実習工場まで旋盤やフライス盤を回すこともあります。

主な活動はNHKのアイデア対決ロボットコンテストに出場することです。毎年5月頃にルールが発表され3月に大会と、ほとんど1年間のプロジェクトになり、なかなか大変ですが、いろいろな人たちの協力のもと、前回の大会では世界3位という成績を上げることができました。「好きなことでは誰にも負けたくない！」ってなことで今年こそは世界一をと、頑張っております。

また、各種のイベントにマシンを出展することもあり

ます。地元の「子どものための科学展」,「ハイテクフェア」には毎回出展しており、大勢の子ども達に楽しく試乗してもらっています。

技科大祭では、「TUTロボコン」という自主ロボットコンテストを開催しております。今年で3回目になりますが、今回は工業高校生の参加もあり、だんだん活発になってきました。

その他のロボット競技にも出場しています。3月の終わり頃にある「豊田クリエイティブ大賞」には毎年何人かが出場しており、昨年度は努力賞を獲得した者もいます。来年には、ロボフェスタの一環で行われる「レスキューロボットコンテスト」にも出場する予定です。

ロボコン同好会も創設されてから9年目になります。今後も、ものづくりを楽しみつつ、チームでプロジェクトに取り組む喜びや苦しみを味わいつつ、活発に活動していきます。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

硬式庭球部

機械システム工学課程4年 大 嶋 紀 安



この度は、硬式庭球部に御援助頂きありがとうございます。

私たち硬式庭球部は現在、修士2年:2名、1年:4名、学部4年:10名、3年:15名、2年:5名、1年:11名の部員総数47名で活動しています。活動時間帯は、毎週月～金曜日が16:30～18:30、土曜日は10:00～13:00で、10月～2月の5ヶ月間はナイターも利用しています。

年間の主な活動としては、3～4月にかけて行われる東

海学生テニス連盟大学対抗リーグ戦、7月の東国体、年に2回(5月、10月)行われる豊田高専との練習試合であり、その他に、チャレンジトーナメント、豊橋オープンなどと年間を通じて活動しております。上述の通り、個人戦もありますが団体戦も多くあるため、試合で勝ち上がっていくために必要不可欠な“実力の平均化”を部活の活動方針としています。また、今年度の新入部員のほとんどが初心者であるため、先輩方の丁寧なアドバイスに加え、練習内容の8割方は初心者にあわせたメニューとなっております。教える側も気合が入ります。

今後の硬式庭球部の目標は、来年3月から行われる東海学生テニス連盟大学対抗リーグ戦に絞ります。リーグ戦は、1～6の6部構成になっており、学部のみが出場できます。残念ながら、我々は現在6部に所属しており、“来年こそは5部昇格”を胸に日々練習に励んでいます。

今回、同窓会から頂くことになりましたクラブ援助金は、テニスボールの補充に充てさせていただきます。

これからも日々の練習を怠らず、目標を達成できるよう努力していきますので、今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

第49回東海地区国立大学体育大会成績一覧表 (男女団体別)

日 時：平成12年6月24日～25日 当番校：名古屋大学
平成12年7月1日～2日

項 目	順 位	優 勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備 考
1 陸上競技	男	岐大 8	名大 6	三重大 5	静大 4	愛教大 3	名工大 2	豊技大 1		
	女	愛教大 5	静大 4	岐大 3	名大 2	三重大 1				
2 水 泳	男	名大 8	三重大 6	岐大 5	静大 4	愛教大 3	名工大 2	浜松医科 1		
	女	岐大 8	三重大 6	名大 5	浜松医科 4	愛教大 3	名工大 2	静大 1		
3 硬式野球										雨天中止
4 準硬式野球		浜松医科 10	岐大 8	三重大・名大各5.5		豊技大・名工大・静大・愛教大 各2.5				
5 テニ ス	男	浜松医科 10	岐大 8	静大 6	名大 5	豊技大・名工大・三重大・愛教大 各2.5				
	女			岐大 6	愛教大 5	豊技大・名工大・三重大・静大 各2.5				
6 ソフトテニス	男									雨天中止
	女									雨天中止
7 バスケットボール	男	静大 10	名大 8	名工大 6	浜松医科 5	三重大 4	愛教大 3	豊技大 2	岐大 1	
	女	静大 6	愛教大 5	岐大 4	名大 3	三重大 2	浜松医科 1			
8 バレーボール	男	名大 10	愛教大 8	岐大 6	三重大 5	静大 4	名工大 3	浜松医科 2	豊技大 1	
	女	愛教大 6	名大 5	岐大 4	静大 3	三重大 2	浜松医科 1			
9 卓 球	男	名大 8	静大 6	岐大 5	愛教大 4	三重大 3	名工大 2	豊技大 1		
	女	愛教大 4	静大 3	岐大 2	三重大 1					
10 バドミントン	男	名大 10	静大 8	岐大 6	三重大 5	名工大 4	豊技大 3	浜松医科 2	愛教大 1	
	女	静大 10	三重大 8	岐大 6	名大 5	愛教大 4	豊技大 3	浜松医科 2	名工大 1	
11 サ ッ カ ー		静大 10	岐大 8	名大 6	浜松医科 5	愛教大 4	三重大 3	名工大 2	豊技大 1	
12 ハンドボール		愛教大 8	名大 6	岐大 5	名工大 4	三重大 3	豊技大 2	浜松医科 1		
13 柔 道		岐大 6	名大 5	三重大 4	豊技大 3	愛教大 2	名工大 1			
14 剣 道	男	岐大 10	名大 8	静大 6	浜松医科 5	名工大・愛教大・豊技大・三重大 各2.5				
	女	静大 6	岐大 5	愛教大 4	浜松医科 3	名大・三重大 各1.5				
15 体 操	男	岐大 5	静大 4	三重大 3	名工大 2	名大 1				
	女	岐大 4	静大 3	愛教大・名大 各0						
16 馬 術		名大 6	愛教大 5	静大 4	三重大 3	岐大 2	名工大 1			
17 空 手 道		名大 8	岐大 6	浜松医科 5	名工大 4	三重大 3	静大 2	豊技大 1		
18 弓 道	男	静大 8	三重大 6	岐大・名工大各4.5		浜松医科・名大・愛教大 各2				
	女	岐大 8	静大 6	浜松医科 5	愛教大 4	名大 3	三重大 2	名工大 1		
19 アーチェリー	男	岐大 4	愛教大 3	三重大 2	静大 1					
	女	愛教大 4	三重大 3	岐大・静大 各0						
20 少林寺拳法		名大 6	愛教大 5	三重大 4	静大 3	岐大 2	名工大 1			
総合順位	男	名大	岐大	静大	三重大	愛教大	浜松医科	名工大	豊技大	
	女	岐大	静大	愛教大	名大	三重大	浜松医科	名工大	豊技大	

(備考) 表中の大学名の右数字は得点を示す。

佐々木前学長 逝く

本学前学長佐々木愼一先生におかれましては、かねてより病氣療養中のところ平成11年12月15日逝去されました。先生は、昭和54年4月に宮城教育大学より本学工学部教授として赴任され、昭和59年4月に副学長に就任された後、平成2年4月から平成8年

3月までの6年間、学長として本学の発展に心血を注がれました。また、本学同窓会活動にも多大なるご支援・ご協力を賜りました。ここに先生の長年にわたるご尽力に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



故 佐々木愼一先生

(大正14年11月25日生)

昭和24年3月	東北大学理学部化学教室卒業
昭和24年5月	山梨大学山梨工業専門学校教官
昭和26年5月	東北大学理学部助手
昭和34年7月	理学博士(東北大学)
昭和38年4月	東北大学理学部助教授
昭和42年5月	宮城教育大学教育学部助教授
昭和45年6月	同大学付属理科教育研究施設教授
昭和54年4月	豊橋技術科学大学工学部教授
昭和59年4月	豊橋技術科学大学副学長
平成2年4月	豊橋技術科学大学学長
平成8年3月	豊橋技術科学大学任期満了退任
平成8年6月	株式会社サイエンスクリエイト取締役副会長就任

合同葬

平成11年12月15日に総胆管がんのため御逝去された佐々木愼一前学長の(株)サイエンス・クリエイト、豊橋技術科学大学、佐々木家による合同告別式が、平成11年12月26日(日)午後1時から豊橋サイエンスコアでしめやかに営まれ、地元豊橋の教育界、経済界等をはじめ、全国から友人、知人ら約千人が参列し、別れを惜しんだ。

式では、神野信郎葬儀委員長(サイエンス・クリエイト社長)が、先生は、「豊橋技術科学大学は国立であるとともに地域立である」との口癖どおり、大学と地域との架け橋として活動され、産・学・官すべての面で、素晴らしい指導力を発揮し、人類の未来のために地球規模で環境問題に取り組まれた。また、最後の講演は、病床から桜ヶ丘中学校の文化祭に出席され、未来を担う若い人々に人類の未来を考えてほしいと訴え、学者として、教育者として最後の講演にふさわしい場であった。と式文で故人を偲んだ。

続いて、童謡をこよなく愛した先生が、生前「僕が死んだら皆で歌ってほしい」と語っていた「赤とんぼ」を本学合唱団、コーラス若草、銀の笛、フンケンクラブとともに参列者全員で合唱し、佐々木先生に別れを告げた。

弔辞では、友人代表として、本学元学長の本多波雄先生が、「このように早く、しかも突然にお別れがくるとは夢にも思いませんでした。私の学長就任以来、佐々木先生は副学長として常に私の考えを理解され、



二人三脚で大学運営に取り組むことができた。後任として第3代の学長に就任後は、豊橋への着任以来考えてこられた環境問題への取り組みの集大成として、エコロジー工学系を新設されるなど、強いリーダーシップのもとに期待どおりの働きをされました。学長退任後もサイエンス・クリエイトを拠点として、地域との交流等を中心に精力的に活動を続けて来られた。先生の志は受け継がれ、必ず大学・地域に花を咲かせ続けることでしょう。」とお別れのことばを述べられた。

この他、豊橋市長の早川勝氏、化学情報協会副会長の千原秀昭氏、東海日日新聞社社長の小坂英一氏からも弔辞が述べられ、それぞれ故人を偲んだ。

最後に、神野葬儀委員長と喪主の央氏から謝辞が述べられた後、先生の好まれた童謡の曲が流れる中、参列者全員で焼香を行い、佐々木先生に最期の別れを告げた。

佐々木 慎一前学長の御逝去を悼む

学長 後藤 圭 司

前学長が敷かれたレールのお陰で、小職が学長に就任した平成8年には開学20周年を成功裏に祝うことができました。その後、平成9年のインドネシア航空機墜落事故、平成10年のアジ化ナトリウム盗難事件、と本学にとって不幸な暗いニュースが続きました。平成11年こそは何事もなく……と念じてきましたのに、年末になって前学長佐々木慎一先生の急逝の報に接し、言うべき言葉も見つかりませんでした。

9月の末頃ロータリーの帰りに偶然ご一緒になりました折、お身体の調子は如何ですかとお尋ねしたことがありました。その時先生は一寸考えられてから「ああ、大丈夫です」とおっしゃったのが最後の会話となってしまいました。入院されているとの情報を12月初め頃に得ましたので、15日の学長選挙の結果報告と言う名目で病院へ翌日お尋ねすることを楽しみにしてしまし

た。16日朝、病院へ出かける直前に大学からの電話連絡で先生の急逝を知りました。急きょ大学経由でご自宅に直行し、ご霊前で無言の報告をさせていただきましたが、あと一日だけでもあったら、と思うと残念ではありません。

平成12年は西暦2000年という大きな節目に当たりますが、本学にとっては特に重要な年になると考えます。すなわち、本学の教育研究に直接必要な建物は全て揃う予定であり、21世紀に向けて教育研究内容の一層の充実を図る必要があります。さらに、本学の改革すべき方向が明確になってくる年でもあると考えます。

教職員一同、より良い大学作りをめざして頑張りますので、見守って下さるようお願いすると共に、先生のご冥福をお祈り致します。

副学長 穴 山 武

佐々木先生がご病気で入院され、病状が思わしくないことを知ったのは、先生がお亡くなりになる前日の午後のことである。早速お見舞に参上するつもりでいた所、翌朝、ご逝去の知らせを受け、余りに突然の訃報に一瞬信じられない思いであった。

私が佐々木先生にお会いするようになったのは、今から12年前、私が八戸高専の校長に就任してからである。おつき合いの期間はそう長いわけではないが、同じ大正14年の丑年生まれであり、山梨大学・東北大学と、同じ大学に勤務した経験のある者同志で、何となく自由に遠慮なく意見が交せる仲間と言った感じでおつき合いをさせて頂いて来た。

平成5年、八戸高専の創立30周年の記念式典にはわざわざ豊橋から八戸にお出で頂き、お祝の言葉を頂戴したことを印象深く記憶している。

先生は高専と技科大の関係を大変重視しておられ、^{しばしば}「高専と技科大は運命共同体」と言っておられた。また、地域との関係、産学連携や国際交流等「開かれた大学」としての活動に強い意欲を示され、特に、学長退官後は、サイエンスクリエイト副会長として、これらの諸問題に情熱的に取り組んでおられた。

高専との関係も地域の関係等の諸問題も、本学が、21世紀に向けて生き残りをかけて取り組まねばならぬ重要課題である。

佐々木先生というかけがえのない先達を失った今、本学に職を奉ずる我々としてなすべきことは、一人一人が先生の志を継ぎ、21世紀を逞しく生き続ける豊橋技術科学大学を創り上げ、先生の果たせなかった夢をこの地域の中で育てることであろう。これを心に誓いながら、先生のご冥福をお祈りしている。

副学長 堤 和 男

昭和56年本学物質工学系に赴任した時に系長だった佐々木先生から、「あなたの専門は物理化学のようだけど、有機化学の大講座に所属するのだから有機化学の授業もやってもらうかもしれない」と言われ、「良いですよ」と答えた。これが本来有機化学を専門とする先生にはカチンときたらしい。その時は何も仰らなかつたが、後々何回皮肉られたことか。「生意気な奴」と。あの時、「私にはその力は有りません」と答えていたらどうだったのだろうか。それから18年半のお付き合い（と敢えて言わせていただければ）は、第一印象で「生意気」と判断された以上気取る必要も無く地でいけた。先生の学長時代にはいくつかの職務を任されて、こんな筈ではなかつたのと思いつつも手の平の上でもがきつつ踊らされたようだ。学長を辞められてから大学に次から次へと難事が降りかかった際に、

人伝てに「あいつは何も言っていないけど苦労してるな」と仰っているとのことを聞いた。「苦労話は私の美学には合いませんよ」といつか申し上げようと思っていたのだが。

11月末に病床にお見舞いした際、ある程度の状況は承知していたのでどういう顔をしようかなと思っていたら、開口一番「ガンになってしまったよ」。その後の会話は、「あれは実はこれこれ然々で」「あの時はこうしとけば良かった」とか、既に覚悟されていたご様子と内容だった。しかし、お話される口調は通常と全く変わらないものだっただけに、次の機会を考えて淡々と「それでは又」と別れた。「幕を下ろすのを急ぎ過ぎませんか」が実感である。

亡くなられてしまうと、寂しいというよりつらさで胸が痛む。安らかに眠り下さい。

最近の技科大は... —学生の立場から—

「大学生」, 「学生」, 「がくせい」, 「ガクセー」

平成12年度クラス代表者会議議長
物質工学専攻修士1年 与 語 健太郎

卒業, 修了生のみなさん, こんにちは。今年のクラス代表者会議の議長です。(と, 挨拶したところで, ピンと来ない方がおられるのではないかと思います。)

クラス代表者会議とはなにか, というところからお話ししようと思います。本学がクラス制をとっているということは, 卒業, 修了生のみなさんもお存じだと思います。入学した直後, 右も左もわからない状況で, いつの間にかクラス代表にされていたという経験をお持ちの方も, 中にはいらっしゃるでしょう。そのクラス代表が一堂に会して, 学生生活の向上をめざすという崇高な理想のもとで設置されたのがこの会議です。現在, 1系から8系までの学部, 修士, 博士後期課程の学生あわせて112名がクラス代表として選出されています。

では, この会議はどのような位置づけなのかと申しますと, 学生組織の頂点(!)なのです。(図1参照) 本学の学生組織は, 全学生が原則入会する学友会を中心としてサークルをまとめる総部会, 技科大祭を運営する技科大祭実行委員会があります。クラス代表者会議は, 学友会の議決機関という性格も併せ持っており, ここで決まったことは全学生の総意ということになるわけです。

本来ならば, 最も強い権限を持つはずのこの代表者会議ですが, 今までは全くその機能を発揮することもなく形だけの会議になっていました。時代の流れでしょうか, 今時の学生は(筆者も学生なので, この表現は適当ではないかもしれませんが), みんなでまとまって何かをしようという気質は, ほとんどありません。私自身, 入学してからの4年半, 学友会執行部に所属し, 学友会主催行事などを担当して, このことを身をもって体験してきました。今の学生は, とりあえず自分の領

域を侵されることを非常にいやがります。つまり, 他人に干渉されたくないのです。だから他人, あるいは組織というものがあるのもいいのです。自分さえよければ, という考え方が充満しているのが現状です。よって, クラス代表者会議の出席率も非常に悪くなるわけです。自分さえよければいいのですから, そんなわざわざ面倒くさいことを抱え込みたくないというのが本音でしょう。

この状況を打破するため, 今年は一つ目標を立ててこの会議に臨むことになりました。以前と比較して, 本学が学生の自動車乗り入れがほぼ自由になりつつあることは, 卒業, 修了生の方もご存じの通りです。しかし, 最近目に余る駐車違反車両が急増しました。例えば, 図書館裏手の芝生の上に4WDのRVが乗り入れてあったり, 駐車場入り口のなるべく講義棟に近い場所にほかがいているのにも関わらず平気で駐車する車があったりと, 散々たる有様です。そこで, 学生からルールづくりをしようという話が持ち上がり, クラス代表者会議で議論が始まりました。

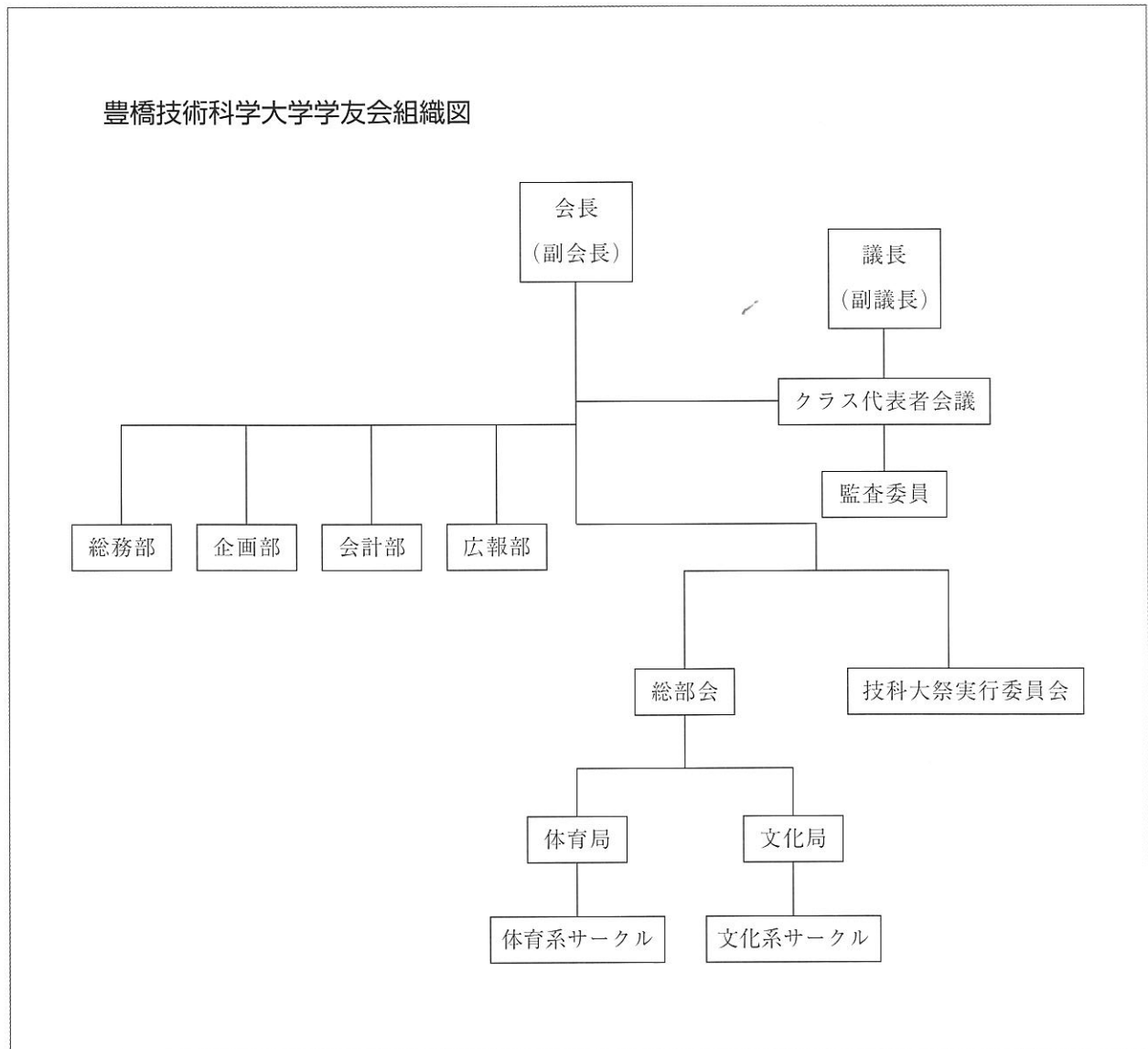
違反駐車車両の問題は, 10数年前までさかのぼります。当時まだ本学の駐車場が完全に整備されていませんでした。そのために, 駐車場に止められない車両がたくさんあったのですが, 駐車場の数が足りないということで, さほど厳しく取り締まり等は行われていなかったようです。しかし, 現在本学の駐車場整備は完了し, 駐車スペースは合計約1000台分確保されています。守衛所裏手の駐車場は, ほぼ毎日全体の10%ほどしか駐車場は埋まっていません。この状況では, 先述のような駐車場が足りないという理由は成り立ちません。学生である我々からみてもあまりにひどい状況ですので, ここは一つ取り締まろうということになったのです。

これをきっかけに、クラス代表者会議自体が活性化してくれればという思いもあり、クラス代表者会議用のインターネット掲示板も立ち上げました。世の中猫も杓子もITと騒ぐだけあって、私個人のホームページの2倍近くのアクセス数を数えるほどの盛況ぶりです。このページでは、かなり熱い議論が戦わされています。穿った見方をすれば、結局、相手が見えない電子の世界ではものはいえるけれど…、という学生が多いのでしょうか。しかし、そのなかでの活発な議論もあって、今年度中には学内の駐車ルールが学生主導のもので、できあがりそうです。

学生組織は必要だと私は考えています。個人的な意見よりも、全体のまとまった意見がより重みを持つことは明かであり、「大学」という「集団」

のもとでは、学友会なり、クラス代表者会議なりが全体の意見の集約場として機能し、まとめ上げ、より快適な学生生活をみんなが送れるようにすることが必要だと思うのです。「個の自由」が叫ばれて久しいですが、あまりにも「個」を重視するあまり、「集団」「全体」といったことが非常に軽視されるようになってきているように思えます。本学での学生「全体」の組織である、クラス代表者会議の議長をしていて、「集団」「全体」があって、はじめて「個」が成り立つということ（あたりまえのことですが）実感している今日この頃です。クラス代表者会議の議長をしている今、この大学にも、「全体」を本当に真剣に考えてくれている人達がいることを実感しています。まだまだ捨てたもんじゃありませんぞ！

豊橋技術科学大学学友会組織図



同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

同窓会会長（2系5期） 近藤 秀 範

(E-mail: kondo@hbr.co.jp)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

激動の時代であった20世紀が閉じ、新しい時代、21世紀が始まろうとしています。明るい未来になるかどうかは、皆様の肩に掛かっていると言っても過言ではありません。またIT革命と称し、情報技術の力が、社会の根幹に関わる時代になってきています。それこそ我が大学の力を発揮できる場ではないかとも思います。活気ある世の中の実現に向けて、皆様の更なるご活躍を期待しております。技科大出身ということ誇りに社会に貢献し、景気を高揚させていけるよう皆様とともに努力していきたいと考えております。

本会報内でもご注意申し上げましたが、昨今、同窓会の名を騙り同窓会と紛うような業者が、皆様の元へ同窓会名簿調査と称し現住所を調べる電話や郵便物を出している事案を聞いております。本学同窓会では、現在、電話による住所調査は行っていませんので、皆様におかれましてもご注意くださいようお願い申し上げます。また、民間業者による名簿発刊の報も受けておりますが、同窓会とは全く関係がございませんので充分なご留意をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。同窓会名簿の発刊は、規定により3年に1回と決まっております。その都度、会報などを通じて、皆様に案内させていただいております。くれぐれもお間違いの無きようお願い申し上げますとともに、従前よりの名簿を利用した悪質な勧誘業者にも充分ご注意くださいようお願い申し上げます。

最後に、同窓会では、同窓会での仕事を手伝っていただける会員の方を募集しております。我々同窓会役員は大学の教育、研究、学生生活を支援し、同窓会会員同士の親交のための仕事をしています。会員の皆様も何かとお忙しいとは存じますが、何卒、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。また、同窓会に対してのご意見、ご要望等がありましたら、ご遠慮なくご連絡ください。

皆様のご多幸とご活躍を豊橋の地よりお祈り申し上げます。

…………… 同窓会事業報告および予定（平成11年度～平成12年度）……………

1. 会報の発行

平成11年度の会報（17号）を、平成11年12月20日に発行・発送した。

2. 卒業記念パーティーの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうために、在学生で構成される学友会との共催で、卒業記念パーティーを開催した。出資金額は、例年通り25万円とした。平成12年度についても、同様とする。

3. 技科大祭への資金援助

在校生への同窓会の存在をアピールするために、平成6年度から技科大祭に資金援助を行っている。平成11年度も、例年通り、10万円の資金援助を行った。平成12年度も同額の資金援助を行う。

4. クラブへの資金援助

学友会を通じて、対外的にもっとも成績や活躍が優秀なクラブにクラブ奨励金を、資金援助の必要性の高いクラブにクラブ援助金を支給している。平成11年度は、クラブ援助金49,000円を豊橋日曜学校に、クラブ奨励金50,000円をラグビー部に資金援助した。平成12年度も10万円を予算として計上している。

5. 役員会の実施

平成11年6月26日および平成12年4月22日に豊橋技術科学大学生産システム工学系にて役員会を開催した。これからも、年1回の割合で役員会を実施していく。

6. 同窓会役員名簿（平成12年12月現在）

会 長：近藤秀範，副会長：戸田裕之

名誉顧問：後藤圭司学長

- 1系（名簿，総会担当）： 関下信正，感本広文
- 2系（事務一般）： 矢野賢一，森田繁樹，赤堀俊和
- 3系（会計担当）： 村本裕二，見目喜重
- 4系（ホームページ担当）： 早坂太一
- 5系（会報担当）： 後藤泰男，佐藤裕久，大北博宣，武藤浩行，齊戸美弘
- 6系（総会担当）： 山本一伸，細田智久
- 7系（ホームページ担当）： 洪澤博幸，加藤博明，山田 実
- 8系（ホームページ担当）： 野田怜治

会費の納入のお知らせ

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生・修了生で、入会費または終身会費が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さいますようお願い申し上げます。

会 費

入 会 金 5,000円

終身会費 10,000円

振込先

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305

加入者名 豊橋技科大エネルギー工学同窓会

2系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 773671

口座名 豊友会

3系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432

口座名 豊橋技術科学大学 3.4系同窓会

4系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432

口座名 豊橋技術科学大学 3.4系同窓会

5系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362

口座名 物質工学系同窓会

6系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330

口座名 建設工学同窓会

7系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884420

口座名 豊橋技術科学大学7系同窓会

8系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884418

口座名 豊橋技術科学大学8系同窓会

同窓会平成11年度収支報告および平成12年度予算案

項 目	平成11年度予算案	平成11年度決算	平成12年度予算
■収入の部			
前年度繰越金	7,023,413	7,023,413	7,797,336
入 会 金	2,150,000	2,101,500	2,150,000
会 費	4,300,000	4,040,000	4,300,000
預 金 利 息	10,000	6,841	7,000
同窓会報発送代行費用	900,000	647,988	900,000
小 計	7,360,000	6,796,329	7,357,000
収 入 合 計	14,383,413	13,819,742	15,154,336

■支出の部			
会 報 経 費	800,000	832,420	840,000
印 刷 代	760,000	802,420	800,000
原稿執筆御礼	40,000	30,000	40,000
役員会経費	30,000	13,000	30,000
卒業記念パーティー援助金	250,000	250,420	250,000
技科大祭後援金	100,000	100,420	100,000
会報封筒作成代	—	—	200,000
名簿管理代	420,000	0	—
庶務経費	100,000	10,000	100,000
同窓会報発送代行費用	900,000	647,988	900,000
クラブ活動資金援助	100,000	100,420	100,000
総会開催経費	—	—	500,000
慶 弔 費	0	24,538	—
各系への会費の配分金	4,300,000	4,040,000	4,300,000
会費直接徴収手数料	0	3,200	—
小 計	7,000,000	6,022,406	7,320,000
次年度繰越金	7,383,413	7,797,336	7,834,336
支 出 合 計	14,383,413	13,819,742	15,154,336

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名 (庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認め、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が努める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

同窓会総会開催のご案内

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、同窓会では、来る平成13年3月24日に、下記の要領で第7回豊橋技術科学大学同窓会定期総会を行うこととなりました。皆様のご来場をお待ちしております。

日 時 平成13年3月24日(土) 13時より
場 所 豊橋技術科学大学D棟5階会議室 D-514

議 題

1. 役員を選出
2. 会則の一部改正「慶弔規定について」
3. 平成8～11年度事業報告および収支決算報告
4. 平成12～15年度事業計画および収支予算案

なお、当日欠席される方は同封の委任状に記名押印の上、同窓会宛ご返信をお願いいたします。

委任状は住所変更通知書としてもご活用ください。